

農業体験を通して、地域を知る

- 伊仙町食育推進協議会では町内の認可保育園・幼稚園、小中学校(全17校)を対象に食農体験学習を実施しており、保育園の4～5歳児から中学3年生まで、それぞれの年代に応じた、農業体験に取り組んでいる。
- 農業体験を通して、子ども達が食と農のつながりを感じるとともに、普段の食事への感謝、地域の産業としての農業について考える機会となっている。



【取組の内容】

○ 保育園・幼稚園での取組

自分たちで育てた野菜を食べる喜びや野菜への興味・関心を持ってもらうことを目的に、園児たちの手で種まきや草取り、収穫等の体験をし、給食等で試食を行った。

○ 小・中学校での取組

地域の生産者等の指導のもと、特産物のバレイショなどの野菜やもち米の栽培・収穫を行い、生徒たちで調理して味わってもらった。もち米の調理は保護者にも参加してもらい、餅つきを体験した。

サトウキビは収穫後、学校へ生産者の方を指導者として招き、黒糖づくり体験を行うとともに、製糖工場も見学した。



黒糖づくり体験



さとうきびの収穫



夏野菜の収穫

【取組の成果】

- 保育園、幼稚園では、自分たちで栽培し、収穫した野菜が給食に入っていることで、苦手な野菜も「頑張って食べよう」と意欲を見せ、「食べたいもの」「好きなもの」が増えた。
- 小学校、中学校では、徳之島の特産物であるバレイショ、サトウキビの栽培や黒糖づくり体験を通し、地域の農業や歴史に対する理解が深まる機会となった。
- 伊仙町「食の文化祭」では、全17校の食農体験の活動報告資料を展示し、広く町民の食農教育への理解が進んだ。

町内認可保育園:3園、幼稚園:3園、小中学校:11校(計17校)
食農体験等参加者延べ人数:1,793人



食の文化祭の様子